



「世界中で宇宙を観ようよ 100 時間」と 「ガリレオの夕べ」

綾 仁 一 哉

〈世界天文年 2009 日本委員会企画委員（美星天文台 〒714-1411 岡山県井原市美星町大倉 1723-70）〉

e-mail: ayani@bao.go.jp

去る 4 月の最初の週末に、世界中で宇宙に親しむ空前規模のイベントが開催されました。そのイベント、100 Hours of Astronomy（邦題：世界中で宇宙を観ようよ 100 時間（以下、「100 時間」と略））は、世界天文年 2009 の主要企画（Cornerstone Project）の一つとして企画され、4 月 2 日～5 日の 4 日間（約 100 時間）にいくつかの国際協力イベントが実施されました。国内ではそのうち、主に二つのイベント、「望遠鏡 80 台世界一周（Around the World in 80 Telescopes）」と「世界一周観望会（24-hour Global Star Party）」に参加しました。

望遠鏡 80 台世界一周

これは、世界の主要な天文台・天文衛星など約 80 施設が参加するインターネットライブ中継イベントで、ヨーロッパ南天天文台（ESO）がホストとなり、日本時間の 4 月 3 日 18 時～4 日 18 時に開催されました。ハワイのマウナケアから現地時間の真夜中近くにスタートし、その後オセアニア、日本と、中継地が夜をつないで西へと移り、ヨーロッパ、南北アメリカを巡り、昼夜の別がない天文衛星などを合間に挟みながら、24 時間後にアメリカ西海岸のパロマー天文台で完結というスケジュールです。日本からは、国立天文台の野辺山宇宙電波観測所、岡山天体物理観測所、重力波観測施設「TAMA300」、そして太陽観測衛星「ひので」、ハワイからすばる望遠鏡、そして日本の公開天文台を

代表して群馬県立ぐんま天文台も参加しました。

各施設の持ち時間は 20 分以内。事前に各施設で制作された 5 分程度の施設紹介映像が流れたあと、ESO のインタビュアーとのトーク形式で、現場の第一線で活躍する天文学者が、取り組んでいる観測テーマを天文ファン向けに熱っぽく語りました。録画映像が ESO のウェブサイトで公開されていて、観測天文学の「いま」を概観できる貴重なライブラリになっています（<http://www.eso.org/public/events/special-evt/100ha/index.html>）。

世界一周観望会

これは、世界各地で天文同好会などが現地時間の 4 月 4 日の夕方に観望会を開催し、夜をつないで観望会場が世界一周するという企画です。実際には、4 日に限らず、「100 時間」の会期中に世界中で観望会や天文講演会などの一般参加イベントが企画されました。なるだけ多くの人々が望遠鏡で天体を見てガリレオの驚きを体験できるように、市街地でも月と土星が楽しめて、北半球でも南半球でも気候がマイルドな時期に、「100 時間」の日程は設定されていました。

「100 時間」イベント募集の呼びかけに応じて、「100 時間」の国際本部によるウェブサイトには世界中から 2,000 件以上のイベントが登録されました。いわゆる先進国以外の国々からも多数のイベント登録があったのが印象的です。国内では世界



「100時間」の日本語ロゴマーク。
(実際の色とは異なります)



「ガリレオの夕べ」の日本語ロゴマーク。
(実際の色とは異なります)

天文年 2009 日本委員会のウェブサイト に 100 件
 余り、国際本部のウェブサイト に 59 件のイベ
 ント登録がありました。国内のイベントの 3 分の 1
 は地域の天文同好会が一般向けに企画していま
 した。ショッピングセンター前の観望会では、700
 人以上が参加したイベントもありました。

このほか、5 日の日曜日は、SunDay (太陽の日)
 として、太陽観察が呼びかけられ、国内でも PAO
 ひのでグループがウェブで参加を呼びかけました。

残念ながら国内ではメイン・デーの 4 日は悪天
 候のために中止を余儀なくされたイベントが多
 く、リベンジしたいという声も聞かれました。

盛り上がりを再び！ 秋に開催「ガリ レオの夕べ」

「100 時間」の世界的な盛り上がりが評価され、

秋の観望好期に観望会をメインに実施する企画
 が、世界天文年 2009 の世界企画として立ち上
 がりました。名付けて「Galilean Nights (ガリレオの
 夕べ)」。日程は 10 月 22 日(木)～24 日(土)。詳細
 はこれから決まりますが、木星、月などの観望会
 が中心になるでしょう。国内ウェブサイトも立ち
 上がりました ([http://www.astronomy2009.jp/ja/
 project/galilean/index.html](http://www.astronomy2009.jp/ja/project/galilean/index.html))。

海外では、Sidewalk Astronomy と呼ばれる市街
 地の観望会が多いようで、「光害で星が見えない」
 と言われる場所での観望会も天文ファンの裾野を
 広げる重要な活動と感じています。ガリレオの夕
 べが、天文施設はもちろん、日本中どこでも観望
 会、ガリレオ体験の場になるよう、皆さんのご協
 力をお願いします。



図 1 700 人以上の人々が参加した、愛媛県の
 ショッピング・センター、エミフル
 MASAKI での「100 時間」観望会。
 写真は世界天文年愛媛実行委員会提供。



図 2 岡山県倉敷市のショッピング・センター、イ
 オンモール倉敷での「100 時間」観望会。
 写真は倉敷科学センター提供。